

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

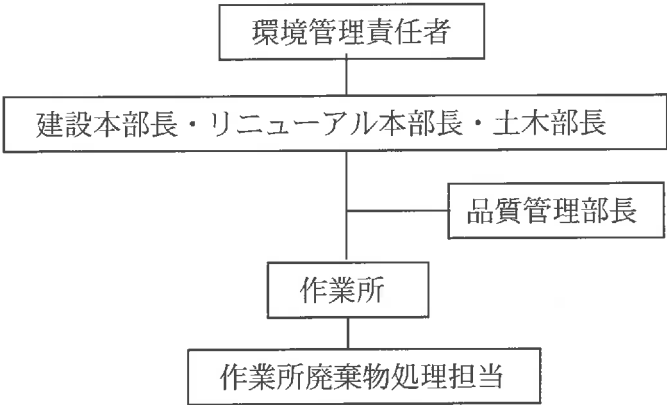
(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和7年5月16日	
川口市長 殿	
提出者	
住 所 川口市栄町3-13-1	
樹モールプラザ3階	
氏 名 埼玉興産株式会社	
代表取締役 北濱雄嗣	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 048-252-3100	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	川口市内各所
事業場の所在地	川口市内各所
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	完成工事高(前年度実績)70億円
③ 従業員数	77人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	建設汚泥→脱水→再生利用 廃プラスチック→破碎・圧縮→再生利用 木くず→破碎→再生利用 紙くず→圧縮→再生利用 金属くず→破碎→再生利用 コンクリートがら→破碎→再生利用 建設混合廃棄物→焼却→再生利用 処理はすべて委託



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	排出量	1865.5 t	8.925 t
	（これまでに実施した取組） 過去に竣工した作業所の産業廃棄物の平均排出量（構造、用途、規模、工期、施工に伴う難易度による）を基準に、各作業所で排出量の目標を立て、排出の抑制を図った。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック
	排出量	1800 t	8 t
	（今後実施する予定の取組） ・過去に竣工した作業所の産業廃棄物の平均排出量（構造、用途、規模、工期、施工に伴う難易度による）を基準に、各作業所で排出量の目標を立て、排出の抑制を図る。 ・コストパフォーマンス及びリサイクルの観点から排出抑制の意識向上に繋げる。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラ、木くず、鉄くず、石膏ボードは専用のフレコンバッグによる分別を基本としている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 産業廃棄物集積置場の計画を重視し、分別及び排出抑制を図る （特に、狭小地で建蔽率の大きい作業所）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	排 出 量	90.075 t	1.595 t	27.38 t	82.14 t	1.13 t	6 t	70 t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	排 出 量	80 t	1 t	25 t	70 t	1 t	5 t	50 t	t
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項									
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項									
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	全処理委託量	90.075 t	1.595 t	27.38 t	82.14 t	1.13 t	6 t	70 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	90.075 t	1.595 t	27.38 t	82.14 t	1.13 t	6 t	70 t	t
	再生利用業者への処理委託量	90.075 t	1.595 t	27.38 t	82.14 t	1.13 t	6 t	70 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	木くず	石膏ボード	がれき類	コンクリート破片	金属くず	ガラスくず	混合廃棄物	
	全処理委託量	80 t	1 t	25 t	70 t	1 t	5 t	50 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	80 t	1 t	25 t	70 t	1 t	5 t	50 t	t
	再生利用業者への処理委託量	80 t	1 t	25 t	70 t	1 t	5 t	50 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	全 処 理 委 託 量	1865.5 t	8.925 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1865.5 t	8.925 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1865.5 t	8.925 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	- t	- t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
	建築工事では電子マニフェスト導入率100%		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	1800 t	8 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1800 t	8 t
	再生利用業者への 処理委託量	1800 t	8 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	- t	- t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 建築工事では電子マニフェスト導入率100%		
※事務処理欄			